

東浦町ごみの分別と減量をすすめる会会議録

会 議 名	平成 28 年度第 2 回東浦町ごみの分別と減量をすすめる会	
開 催 日 時	平成 29 年 3 月 28 日（火） 午前 10 時から午前 12 時 00 分まで	
開 催 場 所	東浦町役場本庁舎 3 階合同委員会室	
出 席 者	推進員	水野 幸三郎（森岡連絡所長） 谷口 勝（森岡台自治会長） 川東 美穂子（森岡台地区住民代表） 久米 弘（緒川連絡所長） 村松 崇代（緒川地区住民代表） 戸田 宏和（緒川新田連絡所長） 松尾 隆（緒川新田地区住民代表） 吉田 錠治（東ヶ丘自治会） 平林 毅（石浜連絡所長） 平林 満江（石浜地区住民代表） 前田 明弘（石浜中自治会長） 太田 巖（石浜中自治会住民代表） 山田 隆（石浜西連絡所長） 春口 郁子（石浜西地区住民代表） 長坂 吉春（生路連絡所長） 河合 辰夫（生路地区住民代表） 田島 由美子（藤江連絡所長） 久米 英子（藤江地区住民代表）
	事務局	神谷 明彦（町長） 成田 昭二（生活経済部長） 古鷹 佳季（環境課長） 畔上 智（環境課環境衛生係長） 片山 皓平（環境衛生係主事） 加藤 史恵（環境衛生係主事）
欠 席 者	推進員	小貝 松弘（東ヶ丘地区住民代表） 横山 友里（森岡地区住民代表）
議 題	1 平成 28 年度ごみ処理量とごみ処理費の中間報告について 2 家庭系ごみ有料化の検討について 3 東浦町ごみステーションにおける資源ごみの盗難について 4 その他	
内 容	会議の公開を承認。内容は、別紙のとおり	
傍 聴 者	1 名	
備 考		

会議内容

環境課長：開式のことば

会議の公開の了承（傍聴者 1 名）

会議中の録音・写真撮影の了承

資料確認

東浦町長： 4 月からのごみ減量の 1 つとしての廃食用油の回収開始にご協力をいただきありがとうございます。また、今年度からは、東部知多クリーンセンターを構成する 2 市 2 町でごみ袋の有料化を検討しております。ごみ有料化という言い方ですが、本来、既に皆様方の税金の方から、ごみの処理のお金をいただいております。それを一律ではなく、捨てる量に応じてごみ袋で課金する従量制の様相持たせたいというのが正確な言い方です。

これについてはまた、ご説明をいたしまして、皆さん方から、ご意見をいただきたいと思います。

環境課長：本会議の目的と概要説明。

会議出席者による自己紹介

座長選出

議事の進行は、本会設置要綱第 5 条の規定により、前回の本会において、座長を務めた緒川区長にお願いしたいと思います。

座 長：あいさつ、議事進行

議題 1 平成 28 年度ごみ処理量とごみ処理費の中間報告について

事務局：平成 28 年度ごみ処理量とごみ処理費について、事務局から資料 1 に基づき説明した。

ごみ処理量は、11,968.9 トンで前年度から 101.7 トンの増加となる見込み。住民 1 人当りのごみ処理負担額は 7,860 円、世帯当りでは 19,705 円となり、前年度対比で 1 人当り 908 円、世帯当り 2,102 円の増加となる見込み。

資源ごみについては、減少傾向であり、特に、紙布類の減少量が多く、資源ごみの盗難や新聞販売、新聞販売店独自の回収ルートなどへの流出が想定される。

【主な質疑等】

推進員：東部知多クリーンセンターの構成市町の 1 人当たりのごみ処理量及びごみ処理費等も入れていただくと、より比較できる資料となると思う。

事務局： 資源ごみについては、品目等が異なり、比較が難しい面もあるが、比較ができる資料に改善していく。

議題 2 家庭系ごみ有料化の検討について

家庭系ごみ有料化の検討について、事務局から資料 2 に基づき説明した。

1 人 1 日当たりのごみの量は減少傾向とはいえ、県内の他市町村の実績と比較すると高い数値であり、着実にごみの減量化が進んでいるとは言えない現状である。そのため、今後さらにごみの減量化に力を入れて取り組んでいく必要があり、ごみの減量化に効果があるとされる家庭系ごみの有料化を中心に研究を行った。

また、家庭系ごみの有料化を実施する場合、東部知多クリーンセンターを構成する 2 市 2 町が足並みをそろえることが望ましく、ごみ処理有料化を導入する時期は現在建設中の新ごみ処理施設の稼働時期の平成 31 年 4 月に合わせて実施すると考えている。

来年度から議会及び町民等の御意見をお伺いしながら、ごみの減量化に向けての検討を進めていこうと考えている。

【主な質疑等】

推進員： もえるごみが増加している原因は把握しているのか。減らせるごみを減らすという有料化なのか、生きていくうえで出さざるを得ないごみについて、増加しているので有料化するという事なのか。

事務局： 増加の原因としましては、本来資源ごみとして分別されるべきものが、可燃ごみに紛れ込んでいるということが挙げられる。あるいは、生ごみの水分が十分に切られていないことが原因と思われる。その生ごみの堆肥化や、それら分別の徹底といったことを、推し進めていくための一つの方法としての有料化を検討していく。

推進員： 常滑では、特小サイズのごみ袋も販売し、かなり家庭で責任持たされて、分別するという話があったが、どこで手間やお金をかけるべきなのかということだと思う。生ごみの資源化についてはどう考えているか。

事務局： 生ごみの資源化についてだが、近隣では、豊明市で、生ごみの堆肥化の施設を運営していた。しかし、施設の老朽化と莫大に費用がかかるということで、その施設が廃止された。よって、東浦町では、各ご家庭で、段ボールコンポストの利用等で生ごみの減量に努めていただきたいと考えている。

推進員： 生ごみの減量についてだが、今までは、なるべく水分をとるように捨ててきた。しかし、コミュニティセンターのアスパを使用して、生ごみの堆肥化を始めると、台所からあまりに多くのごみが出ていることに気づいた。生ごみの家庭での堆肥化の効果等を PR していくことが大切だ。

事務局： 減量のための方法や効果については今まで以上にPR強化をしていく。

推進員： 一方的に、分別、減量を進めてほしいということだけではなく、手間をかけ、分別して資源ごみとして出せば、その量に応じて、地区のコミュニティ活動への交付金として返ってきますよというような、やる気になれる宣伝をするべきだ。つらい部分だけのごみ減量の方法では、減量は進まない。

事務局： 資源ごみの量に応じて、地区へ交付する「東浦町コミュニティ推進協議会交付金のまちをきれいにする活動加算」については、今年度の広報でも掲載した。より一層のPRとしては、地区の方でも、コミュニティでもPRをしていただきたい。

座長： 各それぞれコミュニティの総会があると思うが、私どももその中で、収入として説明をしており、その使い道についても、説明をさせていただいている。これはあくまで、地域の交付金であり、地域で啓蒙していきたいと思う。

事務局： 町民の方のごみ減量へ意識を変えていただければ、ごみ袋の有料化ということとはなくても、ごみの処理ができていくのではないかとこのところだが、
手間をかける方と手間をかけない方で、一律的な税金が使われてしまっっては、公平性を欠くとも考えられる。手間をかけていただいた方にはそれなりの恩典が必要というような発想もある。できるだけ選択肢が広がるような方策を事務局で考えてまいりたい。

議題3 ごみステーションにおける資源物の盗難について

ごみステーションにおける資源物の盗難について、事務局より、資料3に基づき説明した。資源ごみの回収量は、全体的に減少傾向にありごみステーションからの盗難による被害が非常に深刻な問題であると考えている。「東浦町コミュニティ推進協議会交付金のまちをきれいにする活動加算」の減少にも直結する。

今年度、半田警察署とともに、資源物の盗難防止に取り組み、逮捕まで至ったケースなど3つの事例についても紹介した。

有罪となるかの鍵となる、ごみステーション内の資源ごみが町へ帰属することを明記した看板を用意したので、各地区資源ごみステーションへ掲示をお願いしたい。

【主な質疑等】

推進員： 盗難についての情報があれば、地区にも情報提供をお願いしたい。
盗難防止について、できることをやっていきたい。

事務局： 今後、密に情報交換をし、盗難防止に努めたい。

議題4 その他

- ・平成29年度から廃食用油の回収を開始する。実際、回収を行うと、様々な課題が出てくると思うが、その都度良い方法を考えていきたいので、ご協力をお願いする。
- ・広報ひがしうら3月15日号とあわせて、最新版の「東浦町のごみの分け方出し方ポスター」を各家庭に配布させていただいた。再度ごみの出し方を確認していただくということで、2年に1回配布している。
- ・2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックで使用する金銀銅のメダルを小型家電から取り出した金銀銅でつくっていこうという取り組みを東京オリンピック・パラリンピック競技大会の組織委員会が進めている。本町としては、資源を有効活用するこの取り組みに賛同し、小型家電の回収を推進していきたいと考えている。小型家電の回収方法は、もえないごみや年1回の地区回収等があるが、これに加えて、各地区のコミュニティセンター・集会所へ回収ボックスを置かせていただく回収方法も今後検討している。